

平成31年度小平市立小平第三中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

学習に円滑に取り組むことができるための知識や、実生活において活用できるようになっていることが望ましい知識・技能が身に付いていることを確認し、今後の学習に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

中学校においては第2学年までに習得し、活用できるようにしておくべきと考えられる内容を出題しています。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

課題

全体の正答率では全国平均を4.2ポイント上回った。また、学習指導要領の領域においてはすべての観点において全国平均を上回った。各問題の正答率については、語句の適切な活用の仕方に関する問題の正答率のみ全国平均を0.4ポイント下回っている。

書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方をしたり語の一部を省いた表現について話や文章の中で適切な活用したりするなどの言語についての知識・理解・技能の正答率が低かった。知識の獲得だけでなく正しく語句や文を使う力を育む指導がこれまで以上に必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

新出語句を使った短文作りの時間を増やし、獲得した語彙を実際に使い、文を書いたり話したりする活動を年間を通して行う。また文や文章を書くときには文法的な観点から推敲し、常に適切な活用や正しく伝わる文の書き方を意識させる。

知識を獲得し、適切に知識を活用できるよう、授業内だけでなく日々の課題や定期考査などでも生徒の状況を把握し、授業改善に役立てていく。

【数学】

状況の分析

課題

全体の正答率では、全国平均を7ポイント上回った。特に図形で平行移動や三角形の合同条件の意味を問う問題の正答率が8割を超えた。評価の観点別でも全国平均を上回っているが、中でも数学的な見方や考え方を問う問題の正答率が58%と若干低い。

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したり、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明したりすることの正答率が5割を切っていた。このことより、数学的に説明する力が不足していることがわかった。説明する力を身につける指導が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

数学的に物事を捉え、問題解決の方法を説明することができる力の育成に向けた授業改善を進めていく。そのために問題解決にあたって、既習事項をもとにして筋道を立てて考えられるよう指導する。また、自分の考えを他人に理解できるよう説明したり、他人の意見から様々な問題解決の方法を学んだりする機会を作る。授業やテストでも説明する問題に取り組みせるなどする。また、数学的に説明できるよう基本的な数学の知識や技能は欠かせない。復習を交えながら進めていく必要がある。

【英語】**状況の分析****課題**

全体での正答率は全国平均を4ポイント上回った。選択式のリスニングの問題が、正答率が高かった。英作文にも積極的に取り組み、無回答率が、東京都平均より11%、全国平均より15%低く、間違いを恐れず英作文に取り組んでいるのが特徴である。

習った文法事項を応用する力、語彙力、細かいリスニング力が課題である。また聞き取った事柄や読み取った内容から次への応用が課題である。特に読み取りからのライティング力が課題と言える。

学校で取り組む具体的な改善策

リスニング、読解、英作文とも語彙力は不可欠である。既習の文法事項の活用し、読み取りや英作文する力も必要である。そのため繰り返しの発話によって文の成り立ちをつかみながら単語やイディオムを繰り返し練習する。リスニングでは繰り返し聞くことで細かい語句を聞きとり全体の意味をつかむ練習をする。さまざまな題材からの英作文に慣れるために、英作文の練習をする。読解問題に向き合うために中長文をたくさん読む練習をする。これらをバランス良く授業で取り入れていく。

【質問紙】**状況の分析****課題**

「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか」に対して、「1時間以上している」と答えた生徒は73.9%で都平均を2.4%、全国平均を3.9%上回っている。

また、「学校の授業以外に、普段、読書を1時間以上する」と答えた生徒は16.6%で都平均を4.2%、全国平均を3.9%上回っている。しかし、定期考査において、教科別得点分布グラフを見ると学力差は二極化している。

学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしているか」に対して、「3時間以上している」と答えた生徒は11.2%で都平均を0.6%下回っており、家庭学習の定着・充実を図る必要がある。この点を小・中連携の視点で一層推進する。予習・復習の仕方を授業との係わりの中で継続して指導する。

学校等で取り組む具体的な改善策

本校の本年度の研究主題は、「『夢や希望をもち、生き生きと学ぶ生徒の育成』－主体的に考え、議論する学びをとおして－」である。本調査において「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、「そう思う」と回答した本校生徒の割合は、H27 49.4%、H28 44.6%、H29 37.4%、と年々低下してきていた。昨年度が43.6%、本年度は49.7%と着実に割合が上がってきているが、さらに向上を図るために、主体的な学びを各教科学習やあらゆる生活場面において働きかける。

進路・学習部では、自己の将来を見通し夢や目標がもてる特別活動や総合的な学習の時間での実践を充実させていく。生活指導部では、現在及び将来の自己実現に向けて、生徒会活動や安全教育を充実させる。教務・道徳部では、各教科等の授業において生徒のよい点や進歩の状況を積極的に評価し、多面的・多角的に深く考えることができる学習形態を工夫する。